

Public Voices 声のらん

皆さんの「声」にお答えします。

《声のらん》では、「市長への手紙・ポスト」などに寄せられた声とその答えの中から、市民の皆さんの参考になる問答をご紹介します。(内容確認のため、連絡先と名前をご記入ください。)
【〒066-8686 / 東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課宛】



要保護児童地域ネットワーク協議会

な情報交換のほか、要保護児童などについての情報提供、具体的な支援内容の検討などを行っています。

市は、虐待を受けている子どもや支援を必要としている家庭を早期に発見し、適切な保護や支援を行うため、市の関係部署をはじめ、児童相談所や警察署などの道の関係機関、認定こども園などの教育保育施設や小中学校、医療機関など、子どもに関係する機関で構成する《要保護児童地域ネットワーク協議会》(以下「要対協」)を組織し、定期的

お答えします

こども家庭課 児童相談係
☎(24)0935 ☎(22)8851

答 市は、児童虐待の発生予防や早期発見のため、《要保護児童地域ネットワーク協議会》を通じて、地域の関係機関と連携を密にしなが、《ちとせ版ネウボラ》をはじめとするさまざまな施策を行っています。

声 児童虐待のニュースを聞くたびに、悲しい思いをしています。市内で児童虐待が起きないように、取り組みをお願いします。

市内で児童虐待が起きないように、取り組みをお願いします。
〔40歳代/男性〕

また、妊娠・子育て中の保護者が気軽に相談できる《ちとせ版ネウボラ》では、早期の虐待リスクに着目し、妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援を行っています。

さらに、平成29年4月には、道内初となる《こども家庭総合支援拠点》を設置するとともに、《こども支援コーディネーター》を配置し、支援体制と専門性の強化を図りました。支援拠点では、《ちとせ版ネウボラ》と連携を図り、要対協を活用した実情把握や相談対応、関係機関との連絡調整を行っています。特に、児童相談所とは、面接や家庭訪問にも同行するなど、密接に連携しています。

今年度は、児童虐待の発生予防や早期発見、発生時の迅速かつ的確な対応方法などを記載した《児童虐待対応マニュアル》を新たに作成するほか、虐待対応に関する研修会なども実施します。

市は今後も、未来を担う子どもたちが心身ともに健やかに成長できる環境づくりを進めます。



新市史下巻発刊に向けて

シリーズ第6回 (全12回)
アンカレジ市との
姉妹都市提携

筆者・田村俊之

市史編さん担当
☎(24)0523 ☎(42)3134

来 年は、米国アラスカ州アンカレジ市と姉妹都市の提携をして50年を迎えます。

両市が姉妹都市になったきっかけは、日米の親善を目指すアンカレジ市のサリバン市長による積極的なパートナー探しでした。サリバン市長は、候補に帯広、千歳、函館の3市を挙げていました。

提携先の紹介を依頼された全国市長会は、国内有数の拠点空港があること、主要な鉄道や道路が集中する交通の要衝であること、重要な国防拠点があることなど、共通点の多い千歳市を推選しました。

昭和43年4月13日、市がアンカレジ市に提携の意向がある旨を伝えると、アンカレジ市はわずか10日後の議会で提携を議決します。市は、この



千歳で開催された親善少年野球大会(昭和62年)

早急な動きに戸惑いながらも承認手続を進め、議会は6月に全会一致で姉妹都市の提携を議決しました。

翌44年4月18日、米田千歳市長をはじめとする7人の親善使節団がアンカレジ市を訪問。21日に両市長が盟約書に署名し、姉妹都市提携が成立しました。

両市はこれまでに市民や行政、経済、教育など、さまざまな分野で交流してきましたが、何といても主役は小学生たちです。少年野球チームや姉妹校間での往来はおよそ20回を数え、交流した児童数は400人を超えています。